



## 両 輪

小林 俊文\*

あけましておめでとうございます。日本電子回路工業会の小林です。『年々歳歳花相似たり 岁歳年年人同じからず』と言いますが、われわれの住んでいる電子業界の環境は、他の産業に比べて、本当に激しく変化してきています。世界の電子回路業界はスマートフォンやタブレットPC、堅調な自動車に支えられて伸長してきていますが、こと日本に焦点を当てるとき、極めて残念ですが縮小傾向にあります。また、台湾・中国メーカーの台頭により日本メーカーは総じて苦境に立たされています。そんな中、工業会として、会員企業の方々に何ができるのか、何をするべきなのかという観点で、討議し見出したテーマは、『ダントツものづくり』です。近年のアジアの賃金上昇率は10%以上と年々日本との賃金格差は狭まっています。また、円安傾向も相まって、生産性の向上、自動化による省人化など会員企業の体力強化、筋肉質化を進めていければ、まだまだ日本企業の復活もあるという方向性です。具体的に言うとその活動には2つあります。

1つ目は、すぐにできる現場改善です。基本はトヨタ生産方式を活用して、徹底的な現場の無駄をなくす活動です。現場改善のコーチを招き、勉強会の開催、個別指導などを進めています。

2つ目は、装置産業的な工程ごとの連結による一貫化、仕掛減、小型化して生産する方式などを考え出すことです。これには学識経験者、各企業の有識者の知恵がないと答えに近いものが出てこないかもしれません、検討委員会を設置して挑戦を始めました。

また、『ダントツものづくり』には開発費用も必要になってきます。会員様が政府関係機関からの補助金の獲得をする支援なども進めて参ります。こんな活動を通じてエレクトロニクス実装学会と日本電子回路工業会が両輪となって、日本の電子業界を支え、発展を目指す年に今年を位置付けたいと考えています。毎年共同開催しているJPCAショー・マイクロエレクトロニクスショーの今年のテーマは、『載せる つなぐ つくる そして 広げる』です。電子基板を取り巻く技術をテーマに近接する分野との連携を強化したSHOWを企画しています。まさに実装学会をはじめ、JPCA会員企業の技術の紹介がなされる場を広げ、さらなる連携や深堀りがなされ、学会と工業会が協同して発展に結びつけていく、そんな1年にしたいと願っております。エレクトロニクス実装学会と日本電子回路工業会が両輪としてベクトルを合わせて、前に進んでいきましょう。この言葉を新年の抱負としてご挨拶申し上げます。